

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター

宮崎県健康増進課

宮崎県衛生環境研究所

■ 宮崎県第9週の発生動向

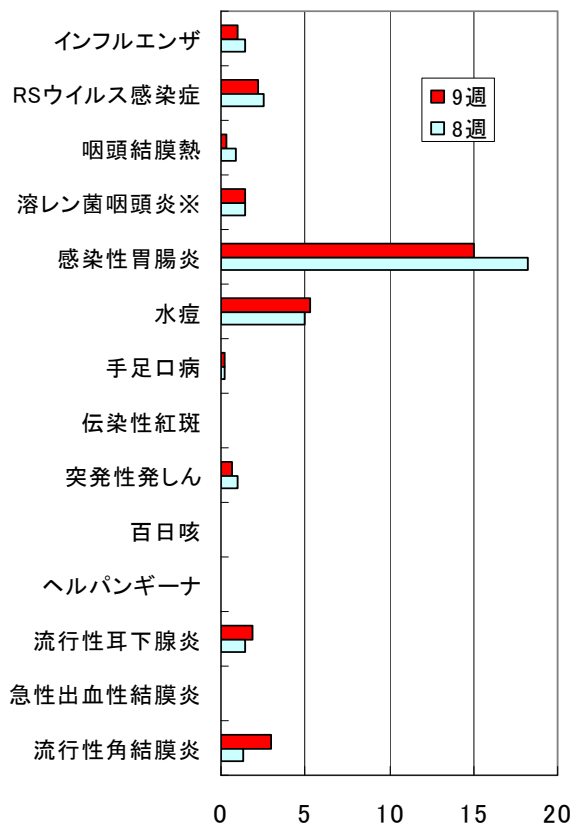
定点医療機関からの報告総数は1,057人(定点あたり31.2)で、前週比93%と減少した。

前週に比べ増加した主な疾患は流行性耳下腺炎と水痘で、減少した主な疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症であった。

流行性耳下腺炎の報告数は67人(1.9)で前週比129%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(1.5)の約1.2倍と多い。延岡(8.8)、日向(5.5)、都城(0.83)保健所からの報告がおおく、延岡保健所管内では警報レベルを超えている。年齢別では4歳から8歳で全体の約7割を占めた。

水痘の報告数は190人(5.3)で前週比106%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(4.1)の約1.3倍と多い。延岡(18.0)・日向(7.0)・都城(6.7)保健所からの報告が多く、延岡・日向保健所管内では警報レベルを超えている。年齢別では1歳から3歳で全体の約7割を占めた。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
感染性胃腸炎	20	15.1	小林(30.0)、日南(22.3)	1歳~6歳で全体の約6割を占めた。
水痘	7	5.3	延岡(18.0)、日向(7.0)	1歳~3歳で全体の約7割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	1.9	延岡(8.8)	4歳~8歳で全体の約7割を占めた。

■ 病原体情報 (衛生環境研究所 微生物部)

□細菌 (平成22年3月9日までに分離同定)

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同日	衛研番号
毒素原性大腸菌(O126 ST)	30代前半	女	2.10	下痢	便	2.23	10502
<i>Salmonella</i> Typhimurium(O4:i:1,2)	70代前半	男	2.15	発熱(39.0℃)、 下痢、腹痛	便	2.22	10503
腸管出血性大腸菌(O91 VT1)	30代前半	女	2.13	無症状	便	2.16	10010

□ ウイルス

報告なし。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 3 例が宮崎市保健所から報告された。
 - ・ 90 歳代の女性で肺結核。
 - ・ 60 歳代の女性で肺結核。咳、痰がみられた。
 - ・ 40 歳代の女性でその他の結核（頸部リンパ節結核疑い）。右頸部リンパ節腫瘍がみられた。
- 3 類感染症 : 報告なし。
- 4 類感染症 : レジオネラ症 1 例が都城保健所から報告された。80 歳代の女性で発熱、咳嗽、呼吸困難がみられた。
- 5 類感染症 : ウイルス性肝炎（その他 EB ウイルス）が宮崎市保健所から報告された。30 歳代の男性で嘔吐、肝機能異常がみられた。

■ 全国第 8 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 21.2 で、前週比 99% とほぼ横ばいであった。今週増加した主な疾患は A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎と水痘で、減少した主な疾患はインフルエンザと RS ウイルス感染症であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 5,169 人（1.7）で、前週比 107% と増加したが、例年同時期の約 8 割である。山形県（5.2）、鳥取県（3.9）、宮城県（3.7）からの報告が多く、年齢別では 3 歳から 7 歳までが全体の約 6 割を占めた。

水痘の報告数は 4,856 人（1.6）で、前週比 107% と増加したが、例年同時期の約 8 割である。宮城県（5.0）、沖縄県、鹿児島県（各 3.1）からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 7 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 37,474 人（12.4）で、前週比 99% とほぼ横ばいであったが、例年同時期の 1.6 倍と多くなっている。大分県（20.8）、宮城県（18.2）、鳥取県（18.1）からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 6 歳で全体の約 6 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 285 例
- 3 類感染症 : コレラ 1 例、細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 12 例、パラチフス 1 例
- 4 類感染症 : A 型肝炎 1 例、つつが虫病 2 例、テング熱 3 例、レジオネラ症 9 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 7 例、ウイルス性肝炎 3 例、急性脳炎 4 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 12 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 5 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、麻しん 3 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第09週(03月01日～03月07日)

疾病名		第8週	第9週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	83	58	5	17	1	10	18			1	6
	定点あたり	1.41	0.98	0.33	1.70	0.14	2.00	3.60	0.00	0.00	0.17	2.00
RSウイルス 感染症	報告数	90	78	7	3	30	4		9	6	15	4
	定点あたり	2.50	2.17	0.78	0.50	7.50	1.33	0.00	2.25	6.00	3.75	2.00
咽頭結膜熱	報告数	30	13	2	2	1	4		1		3	
	定点あたり	0.83	0.36	0.22	0.33	0.25	1.33	0.00	0.25	0.00	0.75	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	52	53	10	4	15	5	5	6	1	5	2
	定点あたり	1.44	1.47	1.11	0.67	3.75	1.67	1.67	1.50	1.00	1.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	655	542	110	106	38	67	90	62	6	37	26
	定点あたり	18.19	15.06	12.22	17.67	9.50	22.33	30.00	15.50	6.00	9.25	13.00
水痘	報告数	180	190	23	40	72	4	8	10	4	28	1
	定点あたり	5.00	5.28	2.56	6.67	18.00	1.33	2.67	2.50	4.00	7.00	0.50
手足口病	報告数	7	6						2		3	1
	定点あたり	0.19	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.75	0.50
伝染性紅斑	報告数	2	5		5							
	定点あたり	0.06	0.14	0.00	0.83	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	36	23	9	2	4	1	2	3		2	
	定点あたり	1.00	0.64	1.00	0.33	1.00	0.33	0.67	0.75	0.00	0.50	0.00
百日咳	報告数	1	3			3						
	定点あたり	0.03	0.08	0.00	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数		1								1	
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	52	67	4	5	35			1		22	
	定点あたり	1.44	1.86	0.44	0.83	8.75	0.00	0.00	0.25	0.00	5.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	8	18	16	2							
	定点あたり	1.33	3.00	5.33	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当たり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～9週)

2類感染症	結核	24例(3)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5例			
4類感染症	つつが虫病	1例	レジオネラ症	1例(1)	
5類感染症	ウイルス性肝炎	1例(1)	急性脳炎	3例	後天性免疫不全症候群
	梅毒	2例	麻しん	1例	1例

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

みずぼうそうに注意しましょう。(3月1日～3月7日)

みずぼうそう（水痘）の報告が増えています。特に延岡市、日向市周辺で流行がみられ、警報レベルを超えています。3歳以下の子どもたちが多く感染しています。

水ぼうそうは冬から春にかけて流行します。潜伏期間は2週間程度で、感染すると37～39度の熱が出て、それと同時に強いかゆみを伴った小さな水ぶくれが全身にできます。水ぶくれは3～4日たつと破れて乾き、黒いかさぶたになりかゆみもおさまってきます。気道を介して飛まつ感染するか、水ぶくれや粘膜の排出物から接触感染することによりうつります。人にうつる力が強いので、水ぶくれが完全にかさぶたになるまで、外出は控えましょう。かゆみが強いので子供はひっかきやすく、そのため細菌による感染をおこしやすくなります。爪を短くし、手をきれいにして2次感染を起こさないように注意しましょう。発疹に気づいたら、早めにかかりつけの医療機関を受診しましょう。

予防には、ワクチン接種が効果的です。1歳を過ぎれば任意で受けることができます。保育園や幼稚園でうつることが多いので、集団生活に入る前に受けておくとよいでしょう。